

氏名	横 矢 聰 佑		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	甲 第 8 2 号		
学位授与の日付	昭和37年3月31日		
学位授与の要件	医学研究科外科系耳鼻咽喉科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)		
学位論文題目	振動ゾンデ法の検討		
論文審査委員	教授 高原滋夫	教授 砂田輝武	教授 児玉俊夫

学 位 論 文 内 容 要 旨

振動ゾンデは細ゾンデ状の振動体である。之を音源に連続せしめる事により、伝音系の適宜の部に振動を与え、之を感受する患者の聴能を定量的に測定するに使用するものである。従って鼓室成形術の術前検査法として之を応用すれば、伝音系の機能及び病変の局在と程度を予知し得るかと考え、検討を加えたものである。

まず振動ゾンデの音響学的特性、測定誤差、及び誤差の原因について観察し、次いで臨床的に検討したが、その結論は下記の通りである。

- 1) 本法は小骨連鎖の中等度以上の離断、及び可動性障害の発見に用うるに適しているが、それ等が軽度の場合の検出には効果的でない。
- 2) 本法によって測定した連鎖の可動性と術後聴力を比較したが、ゾンデ値不良例では術後聴力も不良であった。これに対し、ゾンデ値良好例では術後聴力の“ばらつき”は大であり、聴力予後は連鎖以外の種々の要因で左右されると共に、振動ゾンデ法の検出得力の限界にも関係するものであらうと考案した。

以上から、本法は手術対象例中から中等度以上の耳小骨連鎖離断或は可動性障害の有るものを選出するに役立つと結んだ。

第1篇 昭和34年6月21日 日本耳鼻咽喉科学会中国地方会第79回例会で発表

第2篇 昭和34年11月 同中国地方会第80回例会

昭和35年3月 同中国地方会第81回例会
昭和35年5月 同第61回耳鼻咽喉科学会総会
昭和35年11月 岡山医学会493回例会に於て発表した。
尚, 昭和37年4月 日本耳鼻咽喉科学会雑誌に掲載した。

論文審査の結果の要旨

横矢聡佑提出の「振動ソング法の検討」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

著者は鼓室成形術の術前に中耳伝音系の病変を推測しようとして、振動ソング法を採り上げた。まず振動ソングの音響学的特性に触れ、測定誤差を観察し、次いで臨床の面から検索を加えている。

その結果、本法は耳小骨連鎖の中等度以上の離断、及び可動性障害の発見に用うるに適しているが、それ等が軽度の場合には効果的でない。本事実が実地臨床に応用するに当って不利である事を、離断判定の適中率、或は術後聴力成績との比較から示した後、その原因について考察を加えている。更に振動ソング法改良の方向についても述べている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せらるべき学力を有すると認める。